

りんぽかん 隣保館だより

編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1
電話：72-1191 (FAX兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



町解放文化祭、 多くの催しでにぎわう

ちようかいほうぶんかさい
多くの催しでにぎわう

12月6日、7日の2日間、下榎隣保館・集会所、老人憩の家を会場に、第31回日野町解放文化祭を開きました。

初日はあいにくの雪模様でしたが、多くの皆さんが参加し、盛大に開会式を行いました。

開会式のあとは、「身近な障がいを知ろう」と題して、セルプひの所長の田子功司さんによる講演会と、セルプひのみなさんによる寸劇「中学生セルプ日記」で会場を沸かせました。

また、自治会によるもちつき大会も野外で行い、大勢の人に楽しんでいただきました。午後には、日野中学校吹奏



迫力ある音色を聞かせる

盛大に開催

楽部の皆さんが演奏するとうことで会場は超満員、生の演奏に惜しみない拍手が送られました。

新そばも大人気

2日目の催しの幕開けとなったそば打ち講習会には、中学生を含むそばファンがそば打ちに挑戦しました。

野田の山本晴正さんと生田俊一さんの丁寧な指導のもと、新そばを使った手打ちそばを作りました。また、そばの試食会100食も大盛況でした。



私の作品もあるかな

注意」と題して、黒坂警察署の黒バト劇団が寸劇を披露、社会問題となっている振り込め詐欺に巻き込まれないよう



お正月の準備が整いました

しめ縄作りで交流

おじいさん、おばあさんとしめ縄作りを通じて交流しよう、榎の実学習会の子どもたちが、しめ縄作りにも挑戦しました。

小さい手でわらをより合わせ、おじいさんたちが山から採ってきた、ウラジロやユズリハなどを付ける由来を聞きながらしめ縄を作りま

啓発しました。

また、飛び入り出演もあり、笑い拍手でとてもにぎやかなひとときとなりました。

2日間にわたって展示会場となった隣保館・集会所でも、人権にかかわる各団体、保育園児からお年寄りまで幅広い皆さんから寄せられた作品の数々に、見学者からも「とてもよかったです」の感想を多く聞くことができました。

2008年も多くの皆さんのご協力により盛大に開催できましたことを、関係者一同、心から感謝しております。

今後の隣保館活動についても、ご協力お願いいたします。

2月の学習講座予定

■生け花(草月流) 2月17日(火)
午後7時30分～(花代は当日集金)
下榎集会所(講師:生田清子さん)

■編み物 2月14日(土) 午後1時～
老人憩の家(講師:安達利子さん)

▼日程など変更になることがあります。詳しくは下榎隣保館へ▼どの講座も2時間の予定です。町民どなたでも参加できますので、お気軽に参加ください

人権のまちひの

2009年1月

成果を地域で生かして

人権啓発講演会、町人権・同和教育研究集会を開きました

【町長あいさつ】
開会にあたり景山享弘町長があいさつし、「町民みんなが心豊かで、安心・安全な暮らしと、地域に誇りが持てる町を目指したい。そのためには、人権尊重が一番大切であり、誰もが相手を思いやることが大切と確信している。自己中心的で人権を無視した事件が相次ぐ中、人間らしい生活を築いていくため、会場の皆さんと語り合えるシンポジウムを期待します。研究集会が小地域座談会へとつながっていくことを希望します」と話しました。

【来ひん祝辞】
来ひんを代表し、鳥取県人権教育推進協議会長の宇山真さんからは、「33回の長い研究集会の取り組みによる、町民の人権意識の前進に対し敬意を表します。今、人権教育は『同和教育の解決』から『あらゆる人権問題の解決』へと大きく変わっていく時代を迎えました。このようときには、原点を見ることが大切で

す。鳥取県で進めてきた同和教育の現状がどうなっているのか、今一度たずねる必要があります。そのうえであらゆる人権問題に広げながら、共に手を取り合って進めることが大切です。継続は力なり。継続しなければ人は変わらない」との祝辞がありました。

平成20年12月11日、町文化センターで、人権啓発講演会および第33回日野町人権・同和教育研究集会を開きました。
この大会は、前回大会の反省に立ち、特に本年度は一人一人や、地域としてどう進めていくのか、行動化について研究を深めていただき、併せて小地域座談会へとさらにつないでいくことを大きな目標としました。
今回は、最も身近な「高齢者の人権問題」をテーマに、人権講演会とシンポジウムの二部構成で、各自治会や町民をはじめ、町内の企業・団体などから242人の多くの参加により、熱心に研究が進められました。

【人権啓発講演会】
今回は、鳥取短期大学学長の山田修平さんを迎え、「支

え合うまちづくり、いきいき生きるまちづくり」と題して講演いただきました。

山田さんは講演の終わりに、「地域の人のかかわり方は、傾聴：聞き上手になること、共感：同情でなく寄り添いながら感じること、受容：好き嫌い、価値観の違いを超えて、相手をありのまま受け入れることが大切」と話しました。

また、「(会話の矢印・心の



山田修平さん

位置)心も会話も同じ方向にするためのちょっとした配慮が必要。(心のコップ)認めることで、相手の心のコップは上向きになること。このようなことに心がけながら。家庭の中ではちよつとした心遣いや会話から始めること。地域では名前を呼んであいさつをする。地域みんなの健康づくりに心がける。役割を分かち合うこと」などの小さなことから、「支え合うまちづくり」が始まることを訴えました。

【シンポジウム】

今回のシンポジウムは、「高齢者の人権」をテーマとして、「家庭生活」「地域生活」「介護」の3つの方向から、4人の報告者が日ごろの活動や取り組みの中の問題点や課題、将来の目標などを報告し、会場からも自治会としての課題や今後の地域づくり活動への提言がありました。

また、社会福祉協議会としての取り組み推進や自治会への



シンポジウムでは活発に議論

【全自治会で小地域座談会へつないで】
この研究集会は、その内容を小地域座談会でさらに深めていただきたいものでもあります。昨年12月末までに小地域座談会が開かれた自治会は、わずか数地区です。

高齢者問題は、今後の地域づくりに欠かすことのできない、人権課題を伴った共通する大きな課題のひとつでもあります。

ぜひとも全自治会で開催し、安心・安全な地域づくりへ向け、地域のみなさんの心のコップが上向きになり、話し合いが深まりますようお願いいたします。